

# おかげさま



お盆について、本願寺派総合研究所副所長の満井秀城先生が興味ある提唱されておられたので、ご覧ください。今年のお盆は、縁ある皆さまと共に、遇えた喜びと出遇いのご縁に感謝の心で。



## 歓喜の仏縁週間 — 真宗のお盆

いきなりですが、真宗学試験問題をひとつ。

一般に言われている、次の「お盆」の説明文について、真宗的にふさわしくない点を指摘してください。

「毎年お盆の時期になると、先祖の霊が帰ってきます。」

『季刊せいてん』の読者の皆さんなら簡単ですね。まず、「霊」の实在是認められませんし、浄土に往生された方の還相は、お盆の時期だけに限られるものではありません。

その上、お盆の風習には、さまざまに追善供養の色彩が強く、これも非真宗的です。浄土に往生された方に、「追善」の必要はありません。

◆ このように非真宗的要素の多い「お盆」を、浄土真宗で行うのでしょうか。

「国民的行事だから？」それなら、クリスマスも祝いますか？

「仏教行事として他の宗派でも行っているから？」それなら『般若心経』は、阿弥陀如来の徳が説かれていないから、このお経では仏徳讃嘆にならないですよ。

「追善供養」とも誤解されやすいのですから、やめてしまうのも選択肢の一つかもしれませんが、もったいない気がします。



現在、お盆は国民的行事として定着し、年末・年始とともに、数少ないまとまった休日となっています。そのため、交通機関は、故郷への帰省などで大変な混雑です。それが故郷への帰省なのか、あるいはバカン

ス旅行とどっちが多いのか、その実態を知りませんが今でも故郷には、かなりの求心力があることは確かです。今後も、この求心力が続くかどうかは不透明で、地方の親世代が亡くなると、もはや故郷には戻らないかもしれません。

故郷が求心力を持っている今のうちに、親族みんなが集う貴重な機会として、家族揃っての仏縁・仏事を維持することには大切な意味があると思うのです。

いわば、この時期を、「親族全員聞法週間」と規定したらどうでしょう。

「追善供養」の匂いを除去するために、かつて浄土真宗では、「お盆」のことを「歓喜会」と称していました。家族みんなが、今年も平穏で元気に顔を合わせることを慶び、阿弥陀さまのお慈悲に出遇えたことを慶ぶ、まさしく「歓喜会」の仏縁週間に再生してみませんか。



あけしの郷 明石山樹覚寺  
参加をお待ちしています

七月 一日 晨朝会  
七月 八日 樹覚寺仏教婦人会例会  
七月 十八日 法話会

八月 一日 晨朝会  
八月 八日 仏壮仏婦物故者追悼法曹  
八月 十六日 孟蘭盆会法曹  
八月 二十一日、二十二日 お寺の臨海学校(千葉)

九月 一日 晨朝会  
九月 八日 樹覚寺仏教婦人会例会  
九月 十八日 豊流十方法曹(山崎龍明先生)

九月 二十二、二十四日 みんなの作品展  
九月 二十三日 秋季彼岸会法曹

十月 一日 晨朝会  
十月 八日 樹覚寺仏教婦人会例会  
十月 二十三、二十四日 親鸞聖人報恩講法曹  
(藤澤信照先生)

真実の歩みは安心の歩み 念仏とともに

# あけし酔話 お釈迦さま物語

入滅(にゆうめつ)

それでもお釈迦さまは、激痛や下痢と闘いながら、クシナーラへと、なお歩みを進めました。老衰し瀕死の重病であっても、旅を中止しようとはしなかったのです。

完全なるニルヴァーナを目指しての旅です。最後のその時まで、一人でも多くの人を真実に導く旅なのです。これこそお釈迦さまの心からの思いであり、完全燃焼の人生であり、さとりを開かれた仏陀の道だったのでしょう。

しかしながら、それは街道沿いの樹下で、休み休みしながらの旅になりました。やっとの思いでカクッター河にたどりつき、そこで沐浴をし、水を飲み、林の間に今は仏弟子となったチュンダに上衣を敷かせ、しばらく横になったのです。

その時、お釈迦さまは人びとに向かい、チュンダの供した食事は、あらゆる供養の中で、最上の功德行為であると告げたのです。

これこそがお釈迦さまの慈愛でしょう。チュンダが自責の念にかられることのないように、また人々がチュンダを非難することのないようにという心遣いなのです。

その後、ヒラニャヴァティー河畔にあるクシナーラのサーラ樹林に入り、お釈迦さまはついに一步も動くことができなくなっていました。

クシナーラは、マッラ族の住む小さな町ですが、ここでいよいよ最後の時を迎えることになりました。 つづく

本願寺念仏奉仕団

に参加して

六月十一〜十四日、第十回 栃木南組念仏奉仕団がもようされ、樹覚寺からは仏教婦人会の安立さん 島田さん 田村さん 村松さん 住職 坊守が上山した。御影堂の掃除、

ご門 主様 と 念撮 影、



翌日 緋如上人ご命日法要と素敵な充実した一時を本願寺で過ごしました。終了後は万緑の風山と大覚寺、翌日は泉涌寺と勤修寺、酒処伏見の



酒蔵見 学と京 都を満 喫した。



# あけし あれこれ

## コーヒーノキ (珈琲の木)

ご門徒さんにいただいたコーヒーの苗木がなんとか育って伸びてきました。冬は温度が下がると心配でしたが、部屋の中で耐えてくれました。コーヒーを南国で栽培されてた方から頂いた貴重なコーヒーの木なので、何とか大きくなって花を咲かせてくれるといいなと思っています。



**コーヒーノキ**

**和名:アラビアコーヒー**

**科目:アカネ科コーヒーノキ属**

コーヒーノキは熱帯アフリカやマダガスカル島、マスカリン諸島に約100種が自生しています。最も一般的な種類はアラビアコーヒーで、コーヒー豆を収穫するために、世界中の熱帯園で栽培されています。産地により品種があり、ジャマイカのブルーマウンテンやハワイのハワイ・コナなどが有名です。

アラビアコーヒーはエチオピア原産で、高さ4~7mになる常緑低木です。日陰でも育ち、葉は光沢のある濃緑色で、観葉植物としても栽培されています。葉は10cmほどの間隔で対生し、この葉のつけ根に香りのある白い花をつけます。果実は、緑色から赤くなり、熟すと赤紫色になります。これがチェリービーンズと呼ばれ、果肉は、食べると甘みがあっておいしいです。その中に半球形のタネ、コーヒー豆が2粒入っています。

毎朝、六時の鐘に引き続き  
本堂で朝の読経が勤まる。  
「世の中安穏なれ」と人びとの  
幸せを願い「仏法弘まれ」と  
働かれる、阿弥陀仏の本願  
の徳を喜び讃え感謝する。  
念仏者の読経は「仏徳讃嘆」  
「ありがとう」の心です。  
阿弥陀仏は、私を必ず幸せ  
にすると誓い、私のところに  
至り届いて、私の人生を幸せ  
な人生と仕上げています。  
それでも、願い通りになら  
ないことだらけだって。思い  
通りになったら本当に幸せ?  
幸せの立ち位置に二つある。  
一つは、希めたものが叶っ  
た時の幸せです。別名「タラ  
レバ幸せ」。必ず、間違いな  
くとは言えません。  
二つ目は、今を幸せと生き  
る生き方です。お陰様と生か  
される道であり、有難うと生  
き抜く道である。と聞いてい  
ます。幸せな人生をあなたに。